

ざっくり
黙示録

5

大患難時代 ラツパの裁き

黙示録7～9章

【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

聖書預言をかたまりでとらえる
ふりかえり

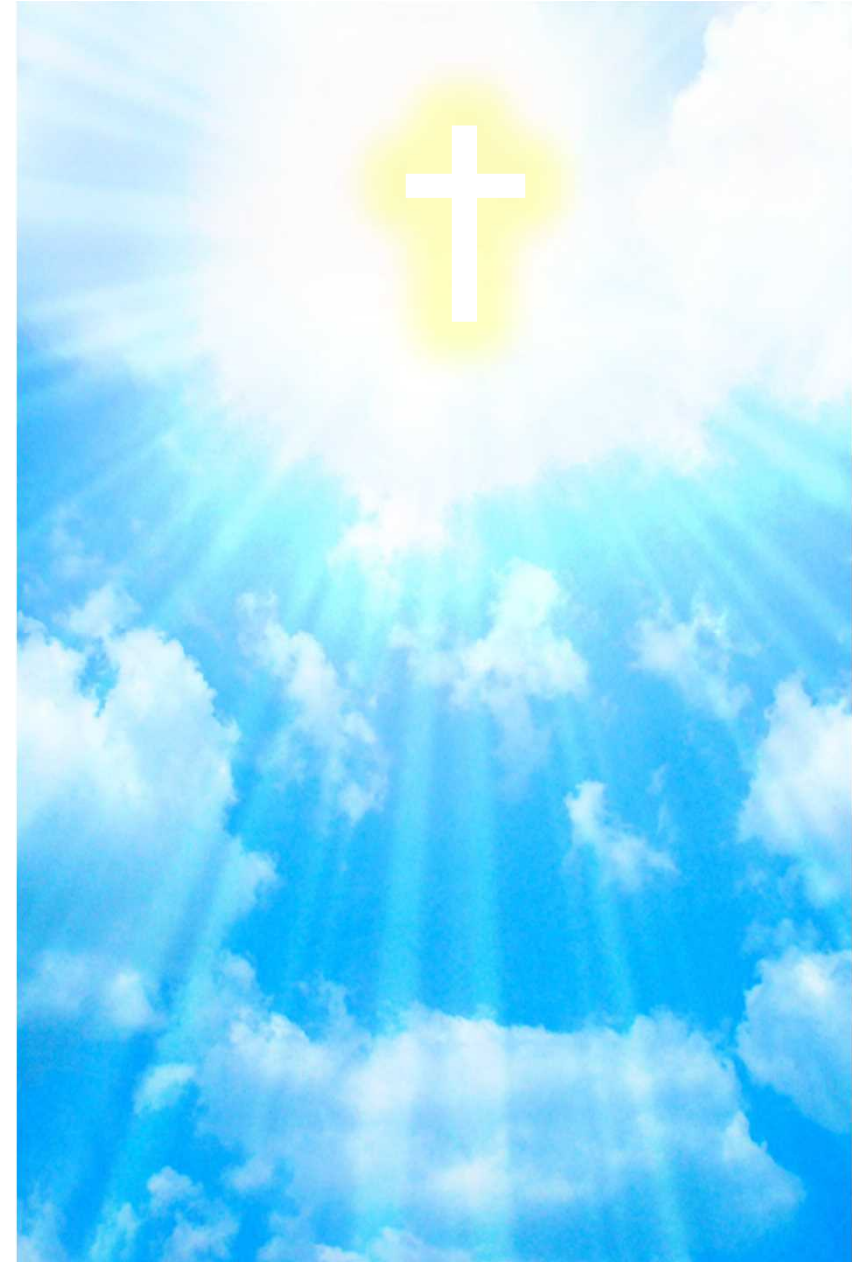
I. 最後の世界宣教 7章

144,000人のユダヤ人と大群衆

II. 7つのラツパの裁き 8~9章

III. まとめと適用

約束された主の恵みを味わおう
イザヤ49章 詩篇23篇



【聖書預言の理解のために!! 立体的に、かたまりでとらえよう!!】

■ ペテロによる引用。使徒2:16～17 (ヨエル書2:28)

『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。
あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。』

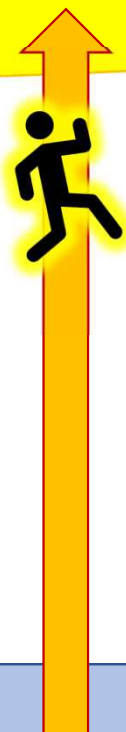
■ ヨエル2:28は、大患難時代のイスラエルの民族的回心を示すもの!!

➡ ペンテコステの聖霊降臨がなぜ、ヨエル2:28の預言の成就と言える？

■ ペテロは、聖霊降臨から、イスラエルの民族的回心、メシア再臨までを、
“ひとかたまりのもの”として理解している!!

➡ 最終的にイスラエルの回心に至る、新しい時代(恵みの時代)の始まり。

天上



恵みの時代



律法の時代



教会時代・福音宣教

御国の時代

メシア初臨

聖霊降臨

エルサレム
陥落

離散の時

イスラエル
建国

携挙

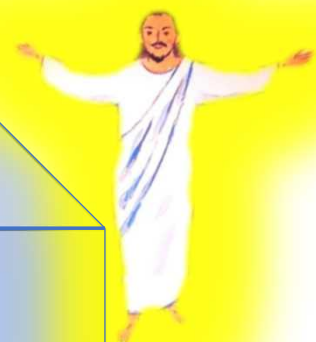
大患難時代

民族的回心

メシア再臨

天上

恵みの時代



律法の時代

教会時代・福音宣教

御国の時代

メシア初臨

聖霊降臨

エルサレム
陥落

離散の時

イスラエル
建国

携挙

大患難時代

民族的回心

メシア再臨

0. 終末のおさらい



【聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある】

天地創造
人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活

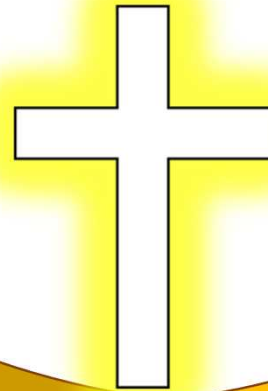
世界の回復

キリストの
再臨

これから起きること

今の時代(教会時代)

～ゴールは、世界の回復。理想世界の実現～



★ イスラエルの歩み ★

【千年王国】

黙示録

メシア再臨

【大患難時代】

異邦人の時

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

土地の契約

【荒野の四〇年】

モーセ契約

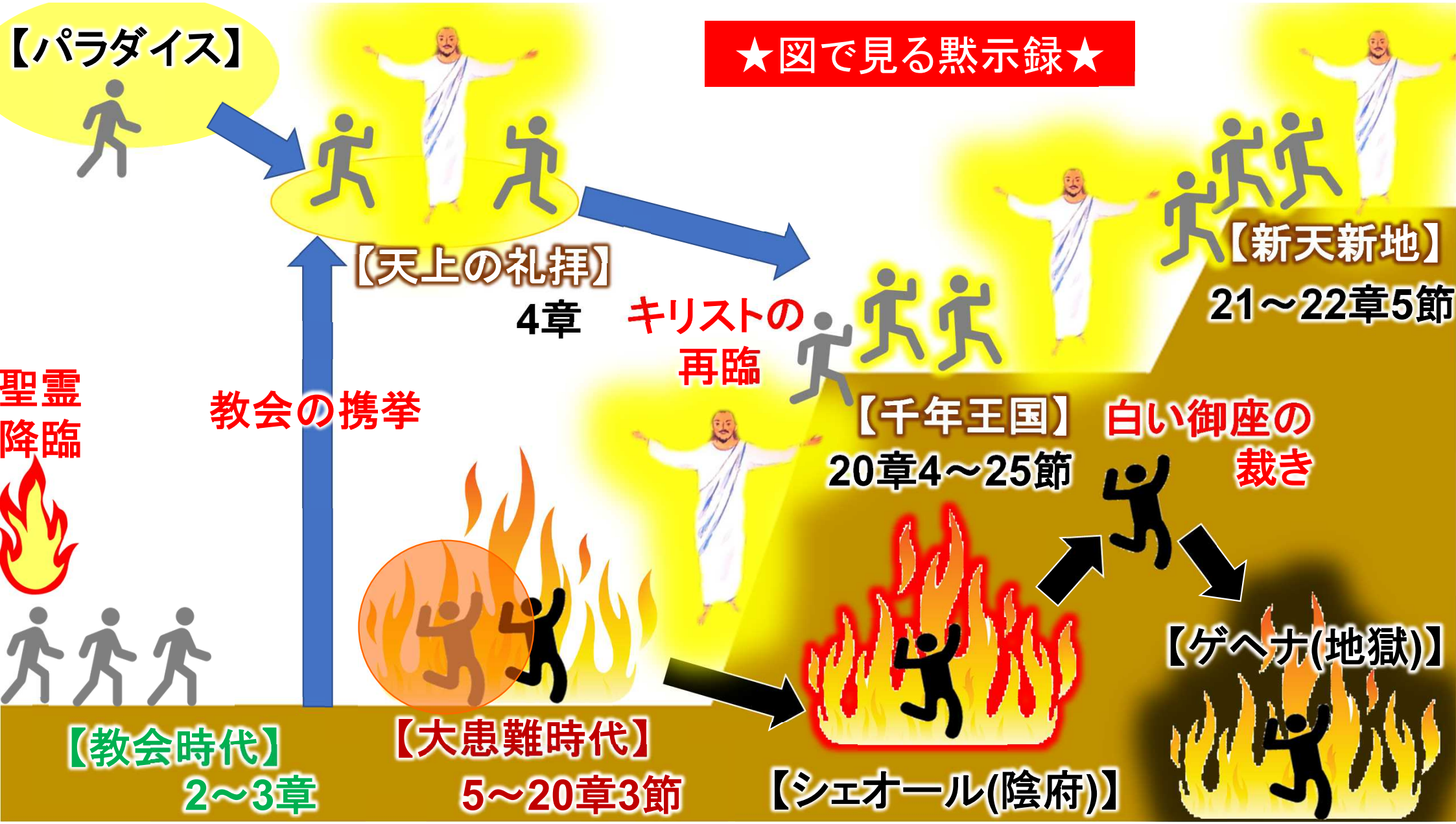
【エジプト奴隷の四〇〇年】

出エジプト 前1290

【族長時代】

アブラハム契約

★図で見る黙示録★



黙示録アウトライン

序 文	栄光のキリストとの遭遇	1章
教会時代(現在)	教会への励ましと警告	2～3章
天上の礼拝	教会の携挙～天上の礼拝	4～5章
大艱難時代	大艱難時代に起こること キリストの再臨	6章～20章3節
千年王国	千年王国の様子 白い御座の裁き(最終的裁き)	20章4節～25節
新天新地	地に降る天のエルサレム 永遠の神の王国	21章1節～22章5節
結 論	イエスの宣言と招き 警告と約束	22章6～21節

【大患難時代とは？】

- 今の「恵みの時代」の最後の7年間。
- 聖書預言では、「**主の日**」とも呼ばれる。
- かつてない大災厄が地上を襲う。

【大患難時代の目的】

- ① 地上から悪と悪人を取り除くため。
- ② 全世界規模の霊的覚醒を起こすため。
- ③ イスラエルを民族的回心に導くため。

【大艱難時代の始まり】

- 教会の携挙の後。(その何年後かは分からない)
- **反キリスト**がイスラエルと7年間の契約を結ぶ時。
→ 世界の支配者となる、サタンの化身。



【大患難時代に下る裁き】

三段階に分けて、神の裁きが下る

★前半の3年半★

- ①七つの封印の裁き
- ②七つのラツパの裁き

★後半の3年半★

- ③七つの鉢の裁き



【①七つの封印の裁き】 黙6～7章

①反キリストによる世界征服

②世界大戦

③大饑饉

④世界人口の1/4の死

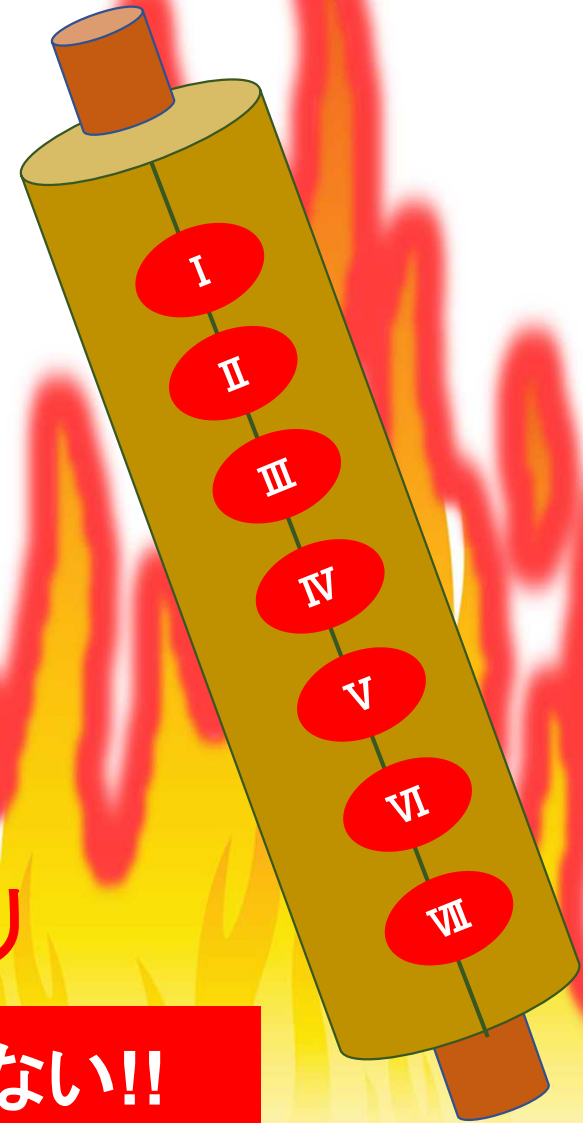
⑤聖徒の迫害

⑥自然界の異変



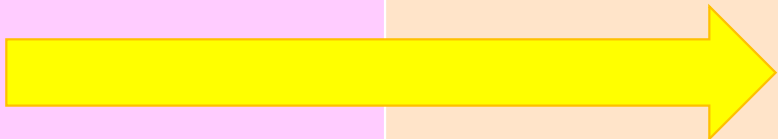
⑦さらに、次の「七つの災い」の始まり

これは、大患難時代の序盤戦に過ぎない!!



大患難時代

大患難前	天上の礼拝	教会の携挙後の天の様子	4:1~5:14
大患難時代	前半(3年半)	7つの封印の裁き 144,000人のユダヤ人と大宣教 7つのラツパの裁き	6:1~17 7:1~17 8:1~9:21
	中間期	第7のラツパの預言・小さな巻物 第三神殿・二人の証人の死と復活 大患難時代のイスラエル 海からの獣・地からの獣 神の勝利の7つの宣言	10:1~11 11:1~13 12:1~18 13:1~18 14:1~20
	後半(3年半)	天に現れるしるし 7つの鉢の裁き バビロン	15:1~10 16:1~21 17:1~18:24
	メシア再臨	千年王国	再臨



天上の礼拝

世界宣教・大リバイバル

14万4千人のユダヤ人 2人の証人

ユダヤ人への大迫害

封印の裁き

ラツパの裁き

鉢の裁き

・教会の携挙

- ・イスラエルの契約
- ・反キリストと
- ・反キリストの世界征服
- ・世界大戦・大飢饉
- ・聖徒の迫害
- ・自然界の異変

- ・1 / 3の土地の滅び
- ・1 / 3の海の滅び
- ・1 / 3の川・泉の滅び
- ・1 / 3の宇宙の滅び
- ・悪霊による苦痛
- ・悪霊による死

- ・反キリストが豹変し、契約破棄、神殿を汚す
- ・二人の証人の死と復活
- ・反キリストの死と復活
- ・ボツラへ逃れる

- ・イスラエルへの大迫害

- ・悪性の腫れ物
- ・血に染まる海

- ・血に染まる川と泉
- ・太陽に焦がされる
- ・暗黒がバビロンを包む
- ・干上がるユーフラテス

- ・招集される悪の軍隊

・ハルマゲドン

・メシアの再臨



I. 最後の世界宣教

144,000人のユダヤ人と大群衆

黙示録7章

【四人の御使い・神の印】 黙7:1～3

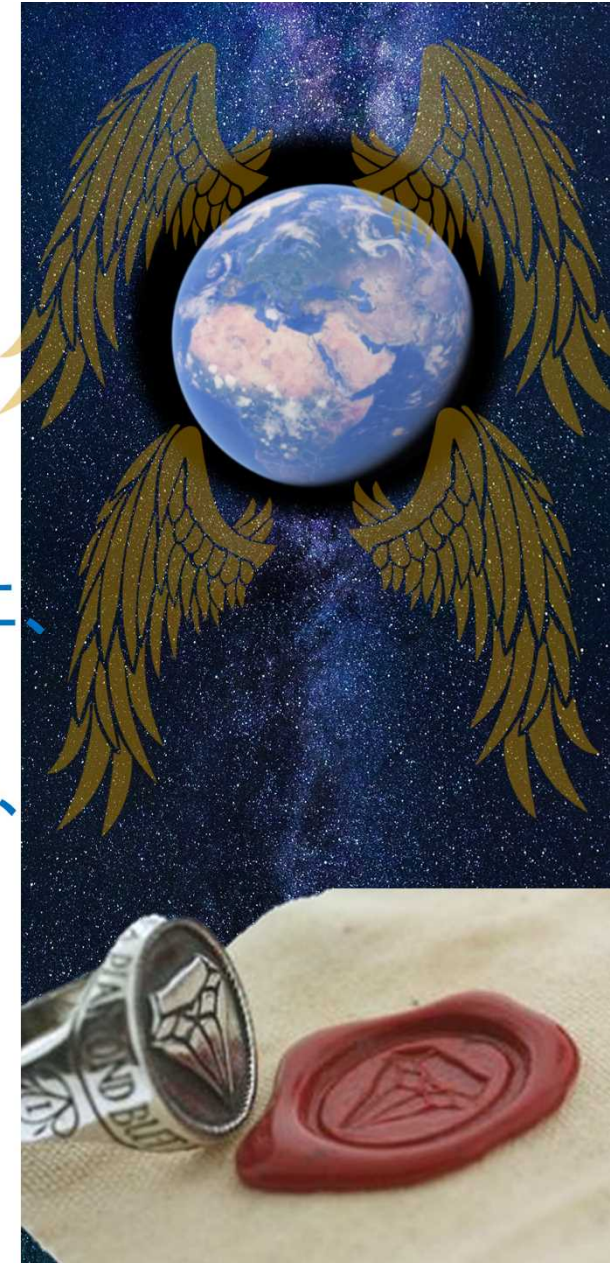
その後、私は四人の御使い*を見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風をしっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。

また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印*を持って上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の御使いたちに、大声で叫んだ。

「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」

* 神の裁きを押しとどめている御使い

* 印章指輪か → 神の所有権と守りのしるし



【14万4千人のユダヤ人】 黙7:4～8

私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。ユダ族から一万二千人が印を押され、ルベン族から...ガド族から...アシェル族から...ナフタリ族から...マナセ族から...シメオン族...レビ族から...イッサカル族から...ゼブルン族から...ヨセフ族(エフライム)から...ベニヤミン族から...印を押されていた。

- イスラエル12部族は、ヨセフからの2部族を加え13。
ここではダン族が省略。 ※シメオンが省略(申33章)
➡ダン族も千年王国で土地を相続(エゼ48:1)



【白い衣を着た群衆】 黙7:9～7:10

その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆*が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣*を身にまとい、手になつめ椰子の枝*を持っていた。彼らは大声で叫んだ。「救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。」

* 大患難時代に福音を信じ、迫害された殉教者たち。

* **白い衣** ...信仰による義を得、救われているということ。

* **なつめ椰子(しゅろ)の枝** ...勝利者の象徴。

■ 大患難時代に、かつてない数の人々が信じて救われる。
大迫害の殉教者たちは、天上の礼拝に加わっていく。



【礼拝に加わる群衆】 黙7:11～14

御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物の周りに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を礼拝して言った。

「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、私たちの神に世々限りなくあるように。アーメン。」

すると、長老の一人が私に話しかけて、「この白い衣を身にまとった人たち*はだれですか。どこから来たのですか」と言った。そこで私が「私の主よ、あなたこそご存じです」と言うと、長老は私に言った。「この人たちは大きな患難を経てきた者たち*で、その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。」

* 大迫害の殉教者が、続々と天上の礼拝に加わっていく。



【天上の礼拝の賛歌】 黙7:15～17

「それゆえ、彼らは神の御座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕えている。御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られる。* 彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽もどんな炎熱も、彼らを襲うことはない。御座の中央におられる子羊が彼らを牧し、いのちの水の泉に導かれる。また、神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。」

* 主ご自身が、共におられる。神の臨在の内に住む。

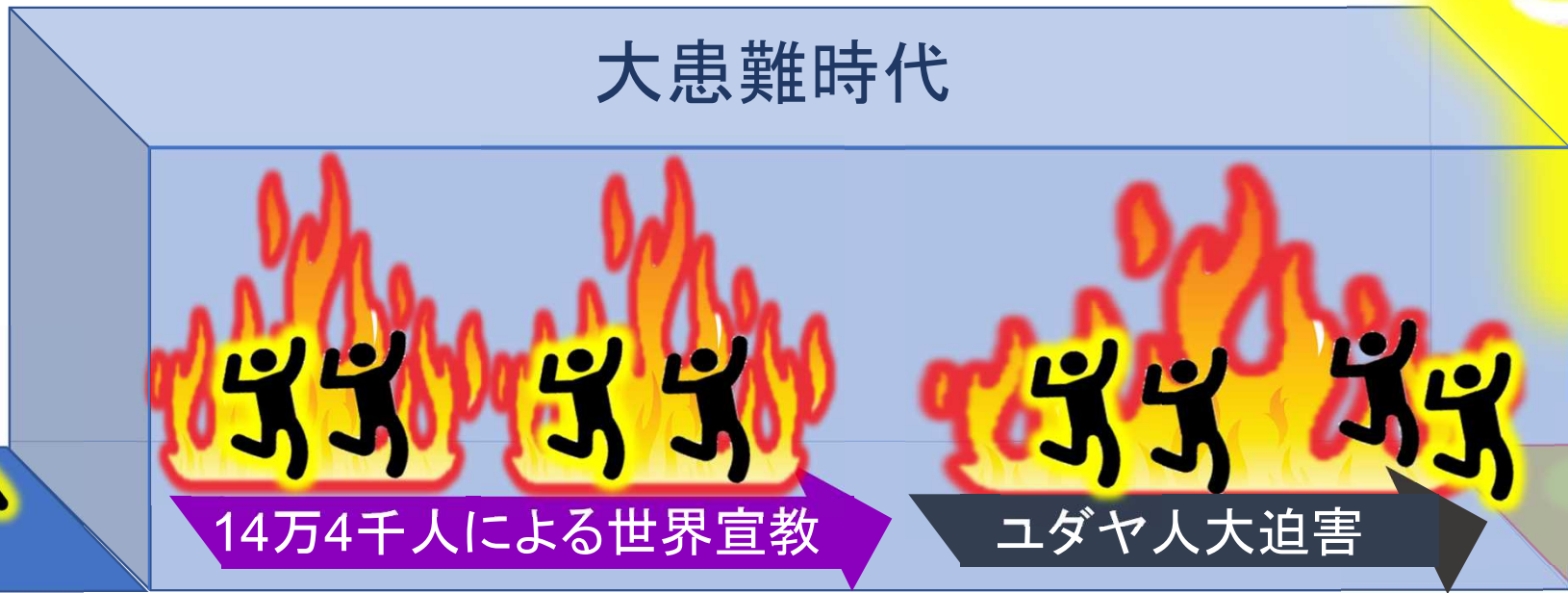
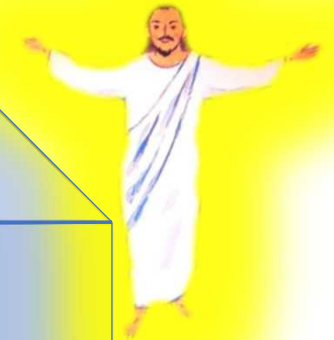
■ 新天新地における主の宣言(黙21:3～4)と同じ。

➡ 殉教者たちは、永遠の平安に招き入れられる。



天上の礼拝

大患難時代



14万4千人による世界宣教

ユダヤ人大迫害

御国の時代

携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

鉢の裁き

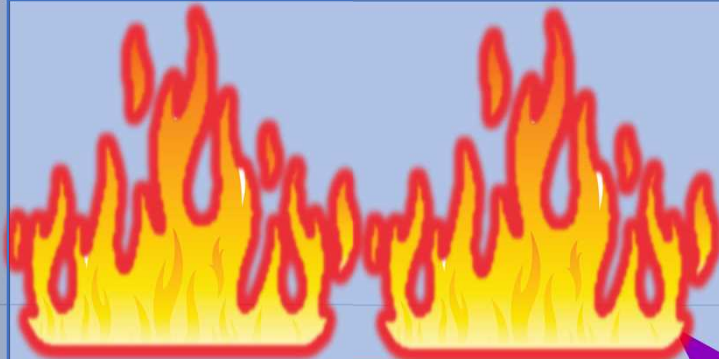
メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

教会時代

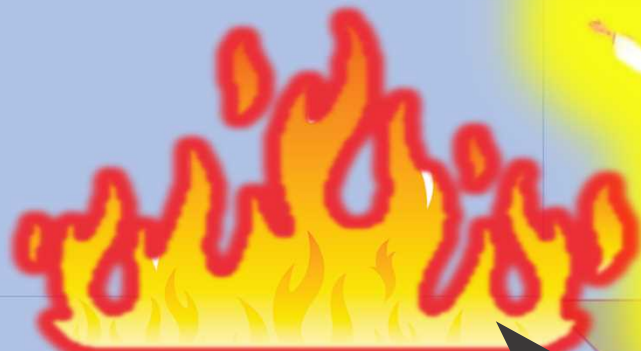
天上の礼拝



大患難時代



14万4千人による世界宣教



ユダヤ人大迫害



御^二の時代



教会時代

携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

Ⅱ. ラツパの裁き

黙示録8～9章



【第七の封印が解かれる】 黙8:1

子羊が第七の封印を解いたとき、
天に半時間ほどの静けさがあった。



【七つのラツパ】 黙8:2

それから私は、神の御前に立っている七人の御使いたちを見た。
彼らに七つのラツパが与えられた。



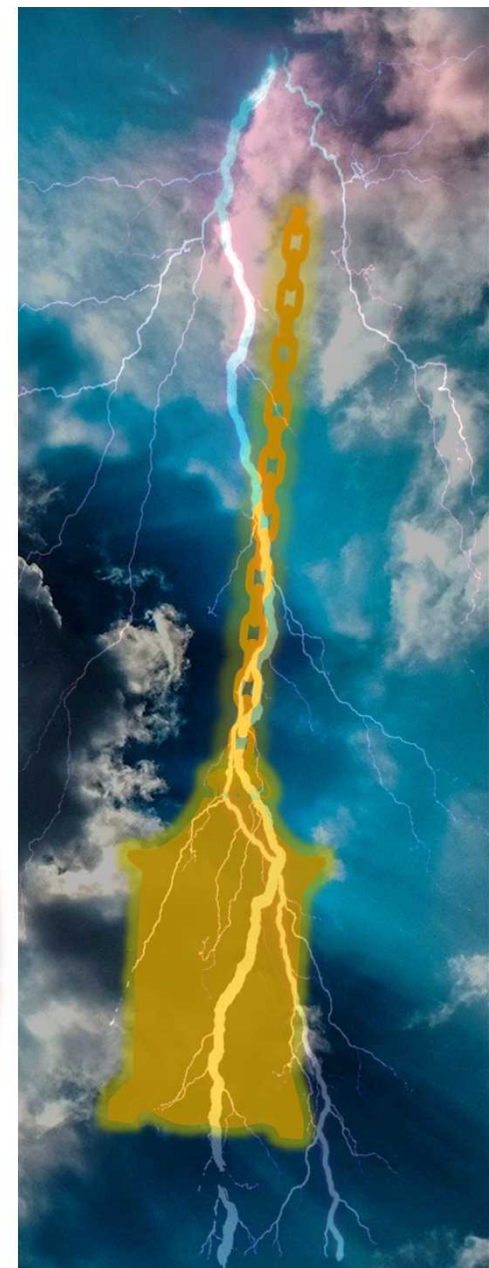
【香の煙】 黙8:3～5

また、別の御使いが来て、金の香炉を持って祭壇のそばに立った。すると、たくさんの香が彼に与えられた。すべての聖徒たちの祈りに添えて、御座の前にある金の祭壇の上で献げるためであった。香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。

それから御使いは、その香炉を取り、それを祭壇の火で満たしてから地に投げつけた。

すると、雷鳴と声のとどろき、稲妻がひらめき、地震が起こった。

* 香は、すべての聖徒の祈りをあらわす。



【第一のラツパ～第二のラツパ】 黙8:6～9

また、七つのラツパを持った七人の御使いたちは、ラツパを吹く用意をした。

第一の御使いがラツパを吹いた。すると、血の混じった雹と火が現れて、地に投げ込まれた。

そして地の三分の一が焼かれ、木々の三分の一も焼かれ、すべての青草も焼かれてしまった。

第二の御使いがラツパを吹いた。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血になった。

また、海の中にいる被造物で、いのちのあるものの三分の一が死に、船の三分の一が壊された。

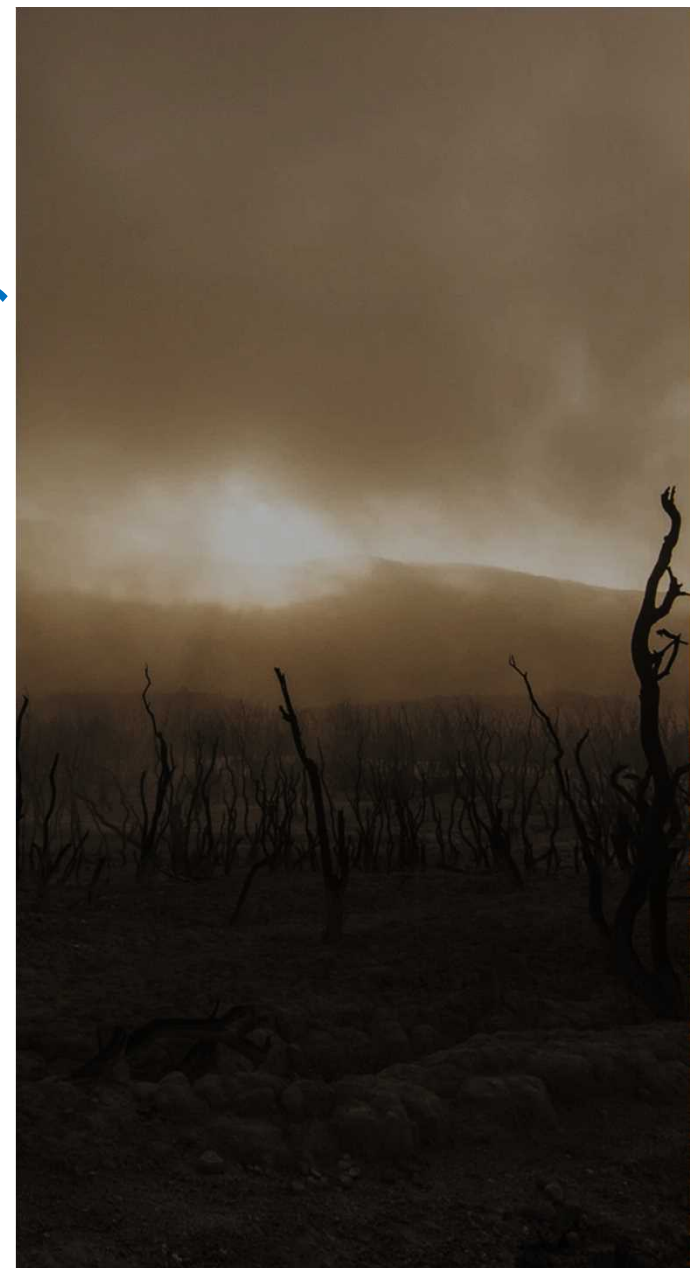


【第三のラツパ】 黙8:10～12

第三の御使いがラツパを吹いた。すると、天から、たいまつのように燃えている大きな星が落ちて来て、川の三分の一とその水源の上に落ちた。

この星の名は「苦よもぎ」と呼ばれ、水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人々が死んだ。

第四の御使いがラツパを吹いた。すると太陽の三分の一と、月の三分の一、また星の三分の一が打たれたので、それらの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、夜も同じようになった。



【一羽の鷲】 黙8:13

また私は見た。そして、一羽の鷲が中天を飛びながら、大声でこう言うのを聞いた。

「わざわざいだ、わざわざいだ、わざわざいが来る。地上に住む者たちに。三人の御使いが吹こうとしている残りのラツパの音によって。」

■ 第1～4のラツパの災いにより、
地の1/3、海の1/3、川の1/3、天体の1/3が、
滅ぼされた。

■ 第5～7の三つのラツパは、最悪の災いとなる。
➡ 鷲は、最悪の三つの災いを警告するもの。



超自然的、
靈的災いの段階へ

【吹き鳴らされる第五のラッパ】 黙9:1~2

第五の御使いがラッパを吹いた。すると私は、一つの星*が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴*の鍵が与えられた。

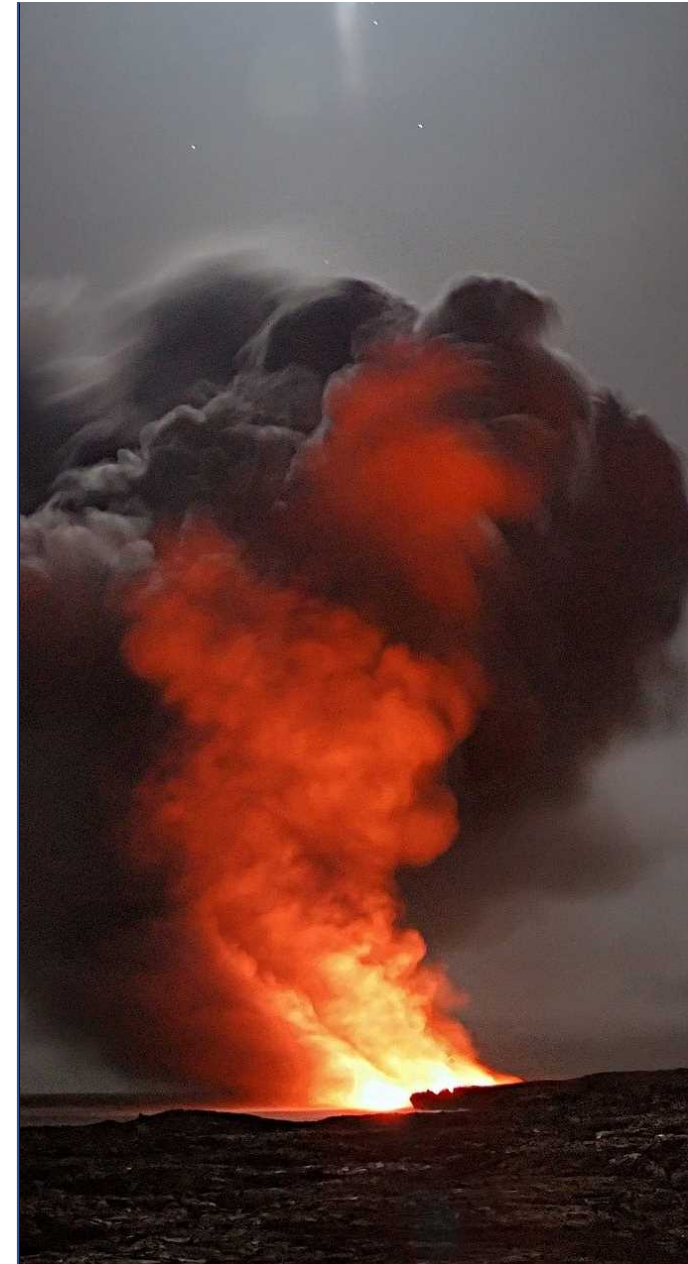
それが底知れぬ所に通じる穴を開くと、穴から大きなかまどの煙のような煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。

* **一つの星** ... 落ちた星は、**墮天使**を意味する。
これは、**落ちた大天使・サタン**。

* **底知れぬ穴(アブソス)**

➡ **主が、悪霊どもを閉じ込めている場所。**

※ **悪霊を閉じ込める権威を持つイエス(ルカ8:31)**



【いなご・悪霊たちの出現】 黙9:3～6

その煙の中からいなご*が地上に出て来た。それらには、地のサソリが持っているような力が与えられた。

そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印を持たない人たち*には加えてよい、と言い渡された。その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。その期間、人々は死を探し求めるが、決して見出すことはない。死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。

* いなごのような姿をした悪霊の群れ。

* 主イエスを信じない人々。➡ 非常な苦痛に襲われた。



【悪霊たちの姿】 黙9:7~12

いなごたちの姿は、出陣の用意が整った馬に似ていた。頭には金の冠のようなものをかぶり、顔は人間の顔のようであった。また、女の髪のような毛があり、歯は獅子の歯のようであった。また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その羽の音は、馬に引かれた多くの戦車が戦いに急ぐときの音のようであった。彼らはサソリのような尾と針を持っていて、その尾には、五か月間、人々に害を加える力があつた。いなごたちは、**底知れぬ所の使い**を王としている。その名はヘブル語でアバドン*、ギリシア語でアポリュオン*という。

* とともに、“破壊者”を意味する。**サタン**。悪霊の王。



【第六のラッパの災い】 黙9:12~16

第一のわざわいは過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。第六の御使いがラッパを吹いた。すると、神の御前にある金の祭壇の四本の角*から、一つの声が聞こえた。その声は、ラッパを持っている第六の御使いに言った。「大河ユーフラテスのほとりにつながれている、四人の御使い*を解き放て。」すると、その時、その日、その月、その年のために用意されていた、四人の御使いが解き放たれた。人間の三分の一を殺すためであった。騎兵の数は二億で、私はその数を耳にした。

* **角** ➡ 神の権威を示す。権威ある主が命じられた。

* 7章の四人の御使いとは別。➡ この4人は、悪霊。



【悪霊の騎兵】 黙9:17～21

私が幻の中で見た馬と、それに乗っている者たちの様子はこうであった。彼らは、燃えるような赤と紫と硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄が出ていた。これら三つの災害、すなわち、彼らの口から出る火と煙と硫黄によって、人間の三分の一が殺された。馬の力は口と尾にあって、その尾は蛇に似て頭を持ち、その頭で害を加えるのである。

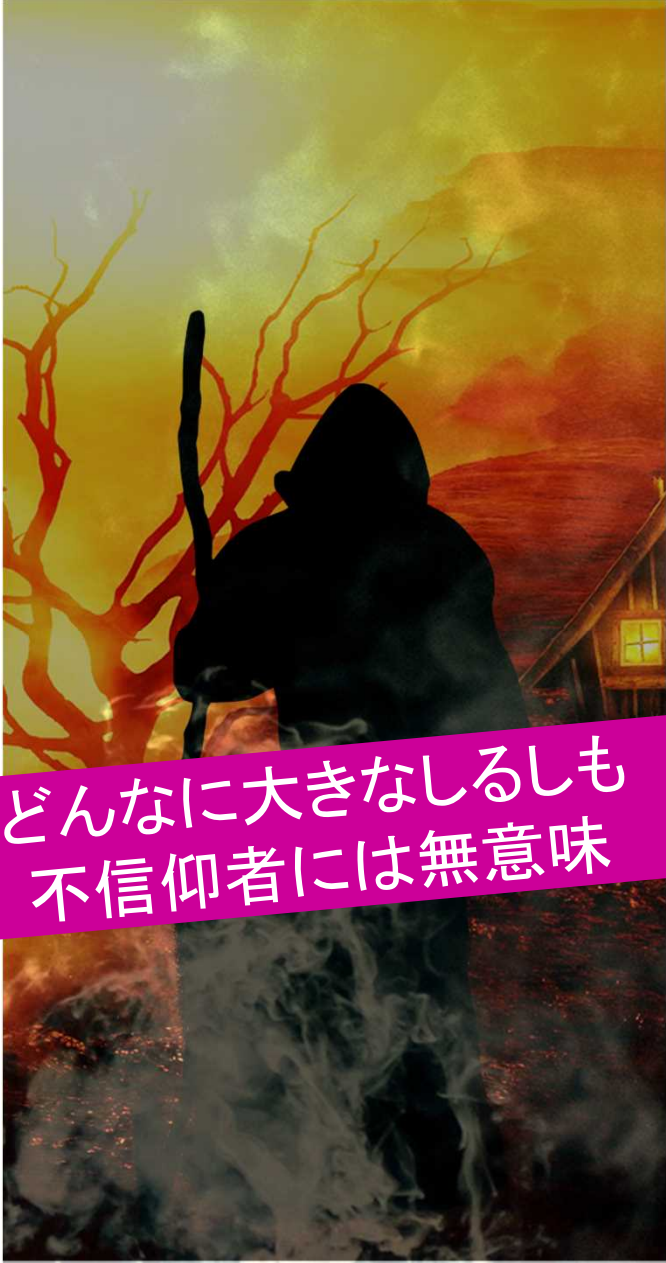
■ 2億の悪霊により、人類の1/3が殺される。



【悔い改めない者たち】 黙9:20

これらの災害によって殺されなかった、人間の残りの者たちは、悔い改めて自分たちの手で造った物から離れるということをし、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた偶像、すなわち見ることも聞くことも歩くこともできないものを、拝み続けた。また彼らは、自分たちが行っている殺人、魔術、淫らな行いや盗みを悔い改めなかった。

- 世界の1/3が滅ぼされ、人類の1/3が殺された。にも関わらず悔い改めない人類に、最後の一連の災いがくだる。 → 第七のラツパ(七つの鉢)



どんなに大きなしるしも
不信仰者には無意味



Ⅲ. まとめと適用

約束された主の恵みを味わおう

イザヤ49章 詩篇23編

【天上の礼拝の賛歌】 黙7:15～17

「それゆえ、彼らは神の御座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕えている。御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られる。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽もどんな炎熱も、彼らを襲うことはない。御座の中央におられる子羊が彼らを牧し、いのちの水の泉に導かれる。また、神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。」

【新天新地での宣言】 黙21:3～4

私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。
「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。
神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもなし。以前のものが過ぎ去ったからである。」

【聖書に預言された神の国】 イザヤ49:8～10

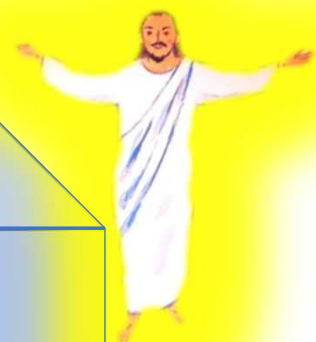
【主】はこう言われる。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、わたしはあなたを助ける。わたしはあなたを見守り、あなたを民の契約とし、国を復興して、荒れ果てたゆずりの地を受け継がせる。

わたしは捕らわれ人には『出よ』と言ひ、闇の中にいる者には『姿を現せ』と言う。彼らは道すがら羊を飼い、裸の丘のいたるところが彼らの牧場となる。彼らは飢えず、渴かず、炎熱も太陽も彼らを打たない。彼らをあわれむ者が彼らを導き、湧き出る水のほとりに連れて行くからだ。

- 今は、恵みの時代。大患難時代すら、恵みの時代の最後に含まれる。なぜなら、大患難を通してイスラエルは回心し、民族的救いに至るから。
➡ 主イエスを信じたすべての者は、神の国で永遠の恵みにあずかる。

天上

恵みの時代



律法の時代



教会時代・福音宣教



御国の時代

メシア初臨

聖霊降臨

エルサレム
陥落

離散の時

イスラエル
建国

携挙

大患難時代

民族的回心

メシア再臨

【来たるべき神の国を待ち望みつつ、今、主の恵みを味わおう】 詩篇23篇

<ダビデの賛歌。>

23:1 【主】は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。

23:3 主は私のたましいを生き返らせ

御名のゆえに私を義の道に導かれます。

23:4 たとえ死の陰の谷を歩むとしても 私はわざわいを恐れません。

あなたがともにおられますから。

あなたのむちとあなたの杖 それが私の慰めです。

23:5 私の敵をよそに あなたは私の前に食卓を整え

頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。

23:6 まことに私のいのちの日の限り いくしみと恵みが私を追って

来るでしょう。私はいつまでも【主】の家に住みます。

【大患難時代の裁きから、なお教えられる主の恵み】

■ 新しい契約が施行され、聖霊降臨から始まった恵みの時代、その最後が、イスラエルへの裁き・大患難時代。

■ 大迫害のただ中で、福音を信じ、救われる多くの人々がいる。民族殲滅の危機を前に、イスラエルは、民族的回心に至り、主イエスは、王の王として再臨され、世界を回復される。

■ 恵みの時代に、すべての人に求められるのは、ただ福音を信じること。主イエスは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された。今も生きておられ、私を救うことができる主イエスは、すべての悪を裁き、世界を完全に支配される方である。

信じる者には、失われない希望があり、今を生きる力が与えられる。

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。
あなたの民、イスラエルは、世の終わりに悔い改めて
世界はすべて、主の御手の内に回復されます。
この混沌とした時代にあって、将来の約束を確信し、
今、この時を、平安の内に歩むことができますように。
主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」